

第65回(令和3年12月28日)
新型コロナウイルス感染症対策
アドバイザリーボード

資料3-6

田中先生提出資料

さくり

スケッチ・ダイアログレポート

2021年12月

新型コロナウイルス感染症

への対応をめぐる

市民的論点

対話を通じた
問題の素描

放送大学教授 奈良由美子 / 北海道大学客員准教授 吉田省子 / 科学コミュニケーション研究所(さくり)

企画支援：JST-RISTEX研究開発プロジェクト「現代メディア空間におけるELSI構築と専門知の介入」(代表：田中幹人)

・2021年12月19日日曜日、新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、市民的論点を素描するため、公募により参加した市民によるオンライン対話を実施した。

・これまでの市民対話は、一般論として次のような点に困難が認められ、政策過程で利用することが難しかった。

- ▼ 政策に反映できるタイミングで結果を得られるスピード感
- ▼ 目的、手法、解釈の明確さと、参照情報としての正当性、利便性
- ▼ 実施コストなど

・本レポートに掲載した対話は、内容としても、タイミングとしても、政策過程で利用可能な参照情報を生み出すために、スピードと精度、実施コストに配慮してデザインした。

・本レポートで用いた手法は、質問紙によるアンケート調査のような定量性はないが、互いの考えや思いを共有し、自ら立てた問いについて調査を行うことで、短い時間、小さな負担で、より熟慮された意見を捕まえ、問題を素描できる利点がある。

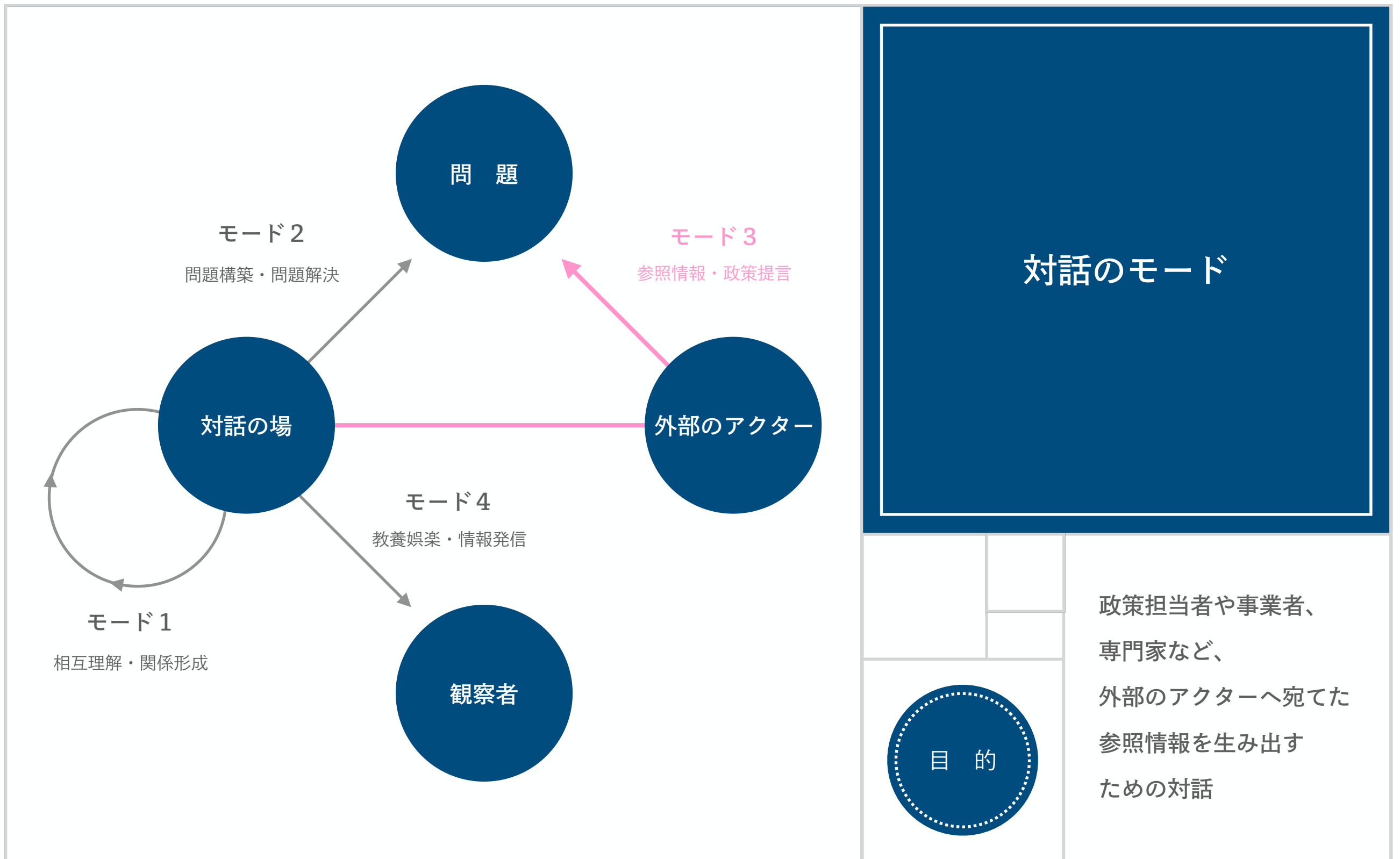
・個々の意見について見ると、参照すべき点がある場合も、ない場合もあるため、目に付いた意見だけを恣意的に取り上げること（チェリーピッキング）は避けるべきである。

・参加者の意見を単純に足し合わせただけでは得られない、対話全体を通じて構築される論点の構造に注目し、政策形成や調査研究のための参照情報としてご利用いただけると幸甚である。

スケッチ・ダイアログ



市民の対話を通じて
問題を素描し、
問題解決に役立つ
参照情報を生み出す



対話には様々な目的に応じた手法があるが、ここでは対話の場に視座を置き、次の4つのモードとして整理した。本レポートに記載された対話は、主としてモード3の対話を意図している。

- モード1 相互理解・関係形成 対話によって生まれた成果を、対話の場で分かち合い、参加者間の相互理解、創造的な関係を形成することを目的とする。
- モード2 問題構築・問題解決 対話によって、問題を構築し、解決に必要なリソースを持ち寄って、自律的な問題の解決を目指す。
- モード3 参照情報・政策提言 対話によって生まれた成果を、政策担当者、意思決定者など、問題解決に必要なリソースを有する者へ届け、対話の場の外側で問題の解決を図る。
- モード4 教養娯楽・情報発信 対話の場を第三者に対して開き、観察者に教養、娯楽を提供し、情報を共有することを目的とする。

1 自己紹介

2 テーマに関する事前評価（4段階評価（評価できる、どちらかという評価できる、どちらかという評価できない、評価できない）と理由）

3 チャットワークと対話

テーマに関する以下の点をチャットボックスに3つ記載した後、順番に発表し、全体で対話する。

3-1 よいと思う点

3-2 よくないと思う点

3-3 よくわからない点（疑問点）

4 インターネット調査

一人1つの調査項目を選定し、30分間、個別にインターネット調査を実施する

5 調査結果の共有と対話

6 テーマに関する事後評価（方法は、事前評価と同様。）

7 対話を踏まえた追加ワーク

*詳細は、付属資料参照。

対話のプログラム

デザイン

聴くことと話すことを丁寧に切り分け、それを積み重ねることで協働的に問題の構築を図る

3つの対話はすべて、オンライン会議システムZoomを使ったバーチャル空間で実施した。

バーチャル空間は、フィジカル空間と異なる特質を持ち、フィジカル空間での対話手法をそのまま使い回すことができないが、オペレーションやファシリテーションを工夫することで、フィジカル空間の不完全な模倣を超えた、創造的な対話を生み出すことができる。

・イベントの概要

日時 2021年12月19日 日曜日 13時00分～16時00分

主催 科学コミュニケーション研究所（さくり）

実施者 奈良由美子（放送大学）、吉田省子（北海道大学）、田原敬一郎（さくり）、
白根純人（さくり）

目的 対話を通じて、新型コロナウイルス感染症をめぐるに関する行政の対応への
期待、懸念、疑問点を明らかにする。

参加者 一般市民（公募） 7名（参加予定8名、欠席1名）

参加方法 Zoomミーティング 謝金 3600円（税込）

・結果の概要

1 時事的な話題は、変異株への水際対策、令和3年度子育て世帯等臨時特別支援事業、布マスクの在庫問題、飲食店における最近の感染対策などに限られ、これまでの振り返りを含む一般的な話題が多かった。

2 変異株への対応については、早期の水際対策についての評価が高かったが、感染が広がった場合の対策や、航空機を利用した際の濃厚接触者の考え方に疑問が呈された。

3 過去の個人に対する給付金や助成金についての評価は高かったが、現在進められている子育て世帯への給付金については、対象外の者から不満の声が上がった。

4 個人への経済的支援については、給付金以外の方法を求める者や、経済的に困難な状況にある人を政府が把握できているのか、疑問視する者もいた。

5 留学生への支援を非難する意見も見られたが、十分な経済的支援を受けられず、困難な状況にある国民が、外国人に対してネガティブな感情を抱く状況は、社会のリスク要因となりうるため注意が必要である。

6 情報共有のあり方、緊急事態宣言の効果、ワクチンの優先順位といった一般的な話題の中には、未解決のまま蓄積している問題が潜んでいる可能性があるため、あらためて検討が必要である。

7 インターネット調査の結果からは、ほとんどの参加者は自力で妥当な情報を得られる状況にあると考えられるが、メディアリテラシーに課題を持つ者の存在も示された。

新型コロナウイルス

感染症をめぐる

行政の対応について



市民的論点

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応への評価

	対話前の評価	対話後の評価
1 評価できる	0 人	0 人
2 どちらかという評価できる	5 人	5 人
3 どちらかという評価できない	2 人	2 人
4 評価できない	0 人	0 人
対話前後の変化	なし	
ポジティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・なかなか難しい事態の中での、前例のない状況下の対応としてはまずまず止むを得ない対応だったと思います。 ・ワクチン接種無料やマスクの着用習慣などの対応は良かったと思う。緊急事態宣言などは、期間など中途半端さが目立った印象だった。 ・最近の対応は、水際対策、3回目の注射のことなど、早め早めに対応しているようなので。 ・失業給付金の延長があったので。 ・現在は感染者が少ないこともあり、緩和が進んでいるので。ただ、感染者が増えてきた時には、都道府県独自の対策等で、ばらつきも出るので、国の指針をよりはっきりとしたほうが良いと思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・行政としては（対外的ですが）いろいろと対応を検討し、実施しているとは思いますが。ただし、TVやネットと比べて、情報の発信力が弱いために情報が行き渡らず（ネットを利用しない高齢者等）、市民に伝え切れないために対応等の評価が低いと考えられます。 ・今回の対話で様々な視点を学ばせていただき、着目していなかった行政の対応も知ることができました。事前アンケートで2の評価をしたときの印象より、3よりはありますが、先進国の中で感染をおさえながら、前に進んでいる感じはあるのかなと。ただ欧米に対し遅れている印象はより実感した。 ・わからない状況の中でも、感染対策などでいろいろ対応をしてもらったことは評価できますが、経済対策という点で、まだまだ救っていかないといけない人への対応が不十分だと思います。 ・今後の政府対応に期待するとともに、岸田首相をはじめ各自治体がしっかりとしたリーダーシップをとって欲しいと思います。 ・デマに対しては丁寧に対応しているようだから。
ネガティブな評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・前政権と比べて、行き当たりばったり感は否めない(水際対策、10万円給付しかり)。ただ、早めに外国人入国を制限したのは良かったと思います。 ・免疫の問題とはいえ、ワクチン接種が比較的外出の少ない高齢者が優先され、仕事などで外に出る機会が多い若年層の接種開始日が遅かったのが納得いかない(私の住んでいた地域だけかもしれませんが・・・)。緊急事態宣言も、どこか中途半端だったかと思います。マスクの配布も、結局あまり効果が期待できないと後ほど分かった布マスクだったのにも不満を感じる。とはいえ、未曾有の出来事なため、対応にも限界はありますし、仕方がないとも思っています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給付金に所得制限を設けたり、また、コロナの影響で本当に困っている人(失業者)を把握出来ていないのでは？と感じました。また、緊急事態宣言についてもあやふやな部分も多く、それを改善しようとしていないように感じますので、評価は難しいです。 ・厚生労働省はデマ対策をきちんと行っていたが、市区町村によってはコロナのデマ対策に関して、力の入れ具合に差があると感じました。デマ対策もそうですが、支援などの情報が必要な人に行き渡らないのも問題だと思います。ただ、途中で首相が変わったりオリンピックを行う必要が出たりするなど、日本全体がバタバタしている中では上手くやっている方じゃないのかなとも思います。
その他の意見	6	6

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 1 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ感染状況提供 		<ul style="list-style-type: none"> ・感染者数など発表があったりするが、だからどうなのかがあいまいに見える ・なぜデマの対策をもっと徹底的に行わないのか？ ・最近ではコロナについての情報提供がないけれど、注意することや、研究の進捗状況などはないのか。
緊急事態宣言	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言を出したこと（日本は経済を優先する考えが強いと思うので・・・） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言が何度も繰り返されていた。不要不急の外出をしている知り合いが周りにたくさんいたので、効果はあまりなかったのでは？と思っています。 ・緊急事態宣言の実効力（注意喚起だけに留まった） 	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言の対応がよくわからない
ワクチン	<p>（承認）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチンの承認が以前と比べてスピーディーになっていること。 <p>（接種）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種が始まってからの流れがスムーズ且つ摂取率を短期間で高くもっていったこと。 ・ワクチン接種無料（お客様に子持ちの方が多く、インフルエンザ予防接種など有料なのに対し無料はありがたいと話していた） ・注射の無料化 ・ワクチンの無料化 ・在宅介護中の父には、訪問医がワクチン接種をしてくれた。 ・職域接種促進 	<p>（優先順位）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種の順番、10～20代若者が話題に上がっていたが、予測できたことなので優先度など工夫できたのでは若年層を対象としたワクチン接種の遅さ（私の場合、一回目の接種ができたのは9月後半頃でした） <p>（予約）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワクチン接種の対応（予約がなかなか取れず） ・ワクチン接種の予約方法が分かりづらかった 	
変異株への対策	<ul style="list-style-type: none"> ・海外渡航制限 ・海外渡航制限（同じく） ・外国人の入国規制を早めに決断したこと、在外邦人の帰国について、早めに修正出来たこと。 ・水際対策 ・今回の水際対策は早い対応だったと思う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・オミクロン株に対するこれからの対策について ・この先また感染者が増えてきた時にその場その場ではなく、こうなった時にはこうしますという対策が既にできているのかどうか ・感染者が広がってきた時の最初の対応はどのように考えているのか。 ・航空機の利用における濃厚接触者の範囲は妥当か。

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 2 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
感染対策			<ul style="list-style-type: none"> ・ 飲食店への制限が解除されて、仕事終わりに食事を 買う場所の選択が増えたのはありがたいが、施設やお 店それぞれで検温や消毒を実施するがレベル変わってき ている。ここの把握ができていのかなど気になる。 ・ 飲食店によってはコロナ対策が甘いお店もある。な ぜ、対策ルールを統一させないのか
テレワークへの支援		<ul style="list-style-type: none"> ・ テレワークの補助不足。全企業・業種ができるわけでは ないが、できる企業・業種に関しては、もっとテレワークがで きるよう金銭的援助をした方が良かったのではと思いまし た。 ・ 緊急事態宣言の期間が延長になったりと短めの設定によ り、在宅業務ができない仕事の方への対応が企業判断のよう な印象で、不安もある中もややもや状態で働いていた 	
待機期間の対応		<ul style="list-style-type: none"> ・ 2週間の自主隔離期間の対応が不十分 	
医療体制の整備		<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ感染した人の対応が不十分であったこと（入院でき ない人がいたこと、薬の承認・治療が遅かったこと） ・ 妊婦さんの受け入れ対応が遅くなり死産の件があったよう に緊急時の対策がとれていない。 ・ 医療体制の不備 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療体制を充実させるのに時間がかかることについ て
個人に対する 経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 給付金対応（満点ではありませんが・・・） ・ 10万円給付を全て現金化出来たこと ・ 10万円給付金が出たこと ・ 昨年の全員10万円給付 ・ 10万円給付や助成金などの制度 ・ 失業者に通常よりも手厚い対応があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今年は給付金が全員でないこと ・ 国民に一人ひとりに対しての給付金が10万円一回のみは少 ないと思ってしまいました。 ・ 未だに、給付金対応に留まっていること ・ 留学生に給付金が出ていること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今回の子供に対する給付金について、目的がそもそも何な のかがはっきりしておらず、何故そこを先に言わないのかが 疑問。それによって現金給付がクーポンかどのようにしたら1 番目的に合っているのかが明確になると思うのですが・・・ ・ 経済的に困っている人については、どんな方だと把握して いるのか。
事業者に対する 経済的支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業者向けの持続的な給付金。 ・ 飲食店等への補助金 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 店への補助金が迅速でなかったこと ・ 医療従事者の支援不足。一番と言っていいほど大変な思い をしているので、もっと手当を出してもいいと思いました。 	
景気対策		<ul style="list-style-type: none"> ・ go to トラベ⁸のタイミングが適切ではなかった 	

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 3 / 4

論 点	よいと思う点	よくないと思う点	よくわからない点（疑問点）
体制・仕組み		<ul style="list-style-type: none"> ・想定外の時の対応をどうするかといったことが仕組み化されていないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策のリーダーが（国、自治体）結局誰なのか、今一つ不明かと。
専門家の役割			<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防対策委員会？のような方々が常にTVに出ていて、結局何なのか？と。
デジタル化		<ul style="list-style-type: none"> ・全体的に、デジタル化が進んでいないこと 	<ul style="list-style-type: none"> ・何故、デジタル化が進まないのか？
布マスクの配布		<ul style="list-style-type: none"> ・マスク配布 あべのマスクと言葉は盛り上がったが、今の時代にあの形のマスクはどうなのか（ほかにお金の使い道あった） ・アベノマスクが今も倉庫で眠っておりその倉庫の管理費に何億も費用がかかっている。 ・布マスクの配布 	

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応についての市民的論点 4 / 4

「本当に困っている人」「救っていかないといけない人」とは誰か。

経済的に困難な状況にある人

去年と今年で大きく経済状況が変わっている方や世帯

コロナの影響で失業してしまった人

コロナの影響で失業した方（特に非正規労働者）

アルバイトや派遣で生活されていて雇用継続が難しい方

アルバイトが出来なくなってしまった大学生

業界的にあおりを受けて収入が半分になるなど大幅にダメージを受けている方

休業せざるを得なかった接客業従事者

飲食店勤務/観光業の方で、アルバイト形態の雇用の方で、コロナで失職をされた方

医療に従事している人

医療従事者

休みもなく、手当ももらえない医療従事者

子育てをしている人

8歳未満を育てている多児世帯

まわりの援助を受けられないひとり身だったりシングル親の方

虐待を受けている人

家庭などで虐待を受けている方

周囲の支援を受けにくい人

頼れる親族がない方

精神的に不安定になっている人

金銭的な不安や十分な医療を受けられないために精神的に不安定になっている方たち

全ての国民

国民全員です。大小違いはあっても、みんな何らかのことを我慢していると思います。平等が一番です。

インターネット調査の結果（概要）

調査項目	調査結果の概要	出典・参考情報	評価
今後、感染者が増えた際、政府に明確な対策はあるのか	<ul style="list-style-type: none"> ・感染状況に応じた複数のシナリオ、国と自治体の関係、3つの柱について、分科会や政府が公表している。 	分科会、政府の文書	信頼できるソースから、おおむね妥当な調査結果を得ている。
行政はデマに対してどのような対策を行っているか1	<ul style="list-style-type: none"> ・厚生省がワクチンに対する対応Q&Aのサイトを設けている。 ・SNSを使ったデマに対して、米国はSNS企業に投稿の削除などの対応を要請している。 	厚生労働省のHP、NHKのニュースサイト	信頼できるソースから、おおむね妥当な調査結果を得ている。
行政はデマに対してどのような対策を行っているか2	<ul style="list-style-type: none"> ・居住地域（埼玉県越谷市）のHPには、デマに関する呼びかけはなかったが、埼玉県桶川市、東京都小金井市、豊島区、千代田区、厚生労働省などのHPに誤情報に関するQ&Aや注意喚起が掲載されていた。 ・YouTubeやTwitterでは、デマを拡散する動画や投稿を削除したり、アカウントを停止させるなどの対策を行っている。 	自治体、厚生労働省のHP	信頼できるソースから、おおむね妥当な調査結果を得ている。
自治体（横浜市）の今後の感染症対策について	<ul style="list-style-type: none"> ・新市長が、所信表明の中で対策について公表している。 ・オープンデータ化、ダッシュボード化を推進する。 	横浜市のHP	信頼できるソースから、おおむね妥当な調査結果を得ている。
治療薬の開発状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・国内で承認されている治療薬、臨床試験を行っている薬剤が複数存在する。 	NHKの特設サイト	信頼できるソースから、おおむね妥当な調査結果を得ている。
日本における緊急事態宣言の基準について	<ul style="list-style-type: none"> ・緊急事態宣言は、「新型インフルエンザ特別措置法」による。 ・緊急事態宣言された場合の措置、判断基準について公表されている。 	まとめサイト、法令データベース、内閣官房のHP	まとめサイトを足がかりに、法令や行政のHPを参照し、おおむね妥当な調査結果を得ている。
行政のデジタル化が進まない理由について	<ul style="list-style-type: none"> ・行政のデジタル化が進まない一番の理由は、紙を主体とした情報管理と前例主義。 ・副次的な理由として、行政側や利用する側のリテラシーが不足していること。 ・個人的には、情報漏洩の危険性を懸念している人も多く、デジタル化を求めるニーズが国民の中で一定数に達していないことや、デジタル化を進めることで、新たな仕事を増やしたくない行政側の利害が一致しているのではとも感じた。 	技術系情報サイト	技術系の情報サイトに掲載された記事を参考情報として挙げているが、客観的な根拠はなく、記事の内容とも整合しない。事実と意見の混同が見られる。

インターネット調査の結果

調査項目	今後、感染者が増えた際、政府に明確な対策はあるのか
調査結果・出典	<p>「今後想定される感染状況と対策について」（令和2年8月）</p> <p>「今後の感染状況を踏まえた対応についての分科会から政府への提言」（令和2年12月）</p> <ul style="list-style-type: none">・各シナリオで想定される施策ということで、何パターンかのシナリオがある。・分科会からは、「地方公共団体には今まで以上にリーダーシップを発揮して先手を打って頂きたい。国は地方公共団体が迅速な意思決定を行えるよう、後押しをして頂きたい」とある。 <p>オミクロン株に対する包括強化策等についての会見（首相官邸） 令和3年12月17日</p> <ul style="list-style-type: none">・ 3つの柱 <ol style="list-style-type: none">1つ目→ワクチンの前倒し2つ目→飲める治療薬の提供 年末～ 24日審査予定。通れば年内から現場に3つ目→検査の強化 予約不要の無料検査を全都道府県へ

インターネット調査の結果

調査項目	行政はデマに対してどのような対策を行っているか1
調査結果・出典	<p>厚生省がワクチンに対する対応Q&Aのサイトを設けている</p> <p>https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/truth/</p> <p>SNSを使ったデマに対して、米国はSNS企業に投稿の削除などの対応を要請している。</p> <p>https://www3.nhk.or.jp/news/html/20210914/k10013253901000.html</p> <p>日本政府は？</p>

インターネット調査の結果

調査項目	行政はデマに対してどのような対策を行っているか2
調査結果・出典	<p>【地域・行政でのデマ対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 住んでいる地域（越谷市）はデマに関する呼びかけがなかったが、同じ埼玉県である桶川市の公式ホームページには注意喚起のページがあった。 新型コロナウイルス感染症関連のデマやうわさにご注意ください（桶川市） https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/hisyoshitsu/hisyokoho/anshin_anzen/Infectiousdisease/7603.html ちなみに、コロナに便乗した詐欺に気を付けるよう注意喚起しているページはきちんとありました。 新型コロナワクチンに便乗した詐欺にご注意ください! https://www.city.koshigaya.saitama.jp/smph/anzen_anshin/seikatsubouhan/sagi/korona-wakuchin-sagi.html 越谷だけでは情報が少なすぎたので、東京都も調べてみました。 東京都小金井市の公式ホームページでは、SNSなどで広まる誤情報に対して、バツサリと回答していた（ネットでは絶賛でしたが、市民からはクレームが来ていたようです）。 小金井市医師会からのメッセージ（新型コロナワクチンについて その8 ワクチンの効果、誤情報に注意） https://www.city.koganei.lg.jp/kenkofukuhsi/kenkosodan/info/kanrennzyouhou/koganeishi-shingata8.html ワクチン“デマ撃退”に称賛も…お年寄りから批判のナゼ 東京・小金井市の憂鬱 https://www.sankeibiz.jp/business/news/210817/bsj2108171635001-n1.htm 豊島区でもワクチンの誤情報に関する疑問を、Q&A形式で答えていました よくあるお問い合わせ（Q&A） 誤情報にご注意ください。 https://www.city.toshima.lg.jp/496/2106021646.html 千代田区では産婦人科医からのメッセージとして、主に妊婦の方に気を付けてほしいデマへの注意喚起がプレスリリース形式で投稿されていました 8月18日（水曜日）、産婦人科医師からのメッセージ配信を開始 ワクチン接種をためらっている妊婦の方へ（令和3年8月18日配信） https://www.city.chiyoda.lg.jp/koho/kuse/koho/pressrelease/r3/r308/20210818.html また、厚生労働省のホームページでも、ネットでよく広まっている誤情報に関するQ&Aページが設けられていました 新型コロナワクチンQ&A これは本当ですか？ https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/truth/ <p>【youtubeやTwitterなど、大手メディア・SNSサイトでの対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> YouTubeでは、デマ情報を拡散する動画を100万件以上削除したり、反ワクチン擁護者のチャンネルアカウントを停止させたりするなどの対策を行った。 YouTubeの取り組み https://www.youtube.com/intl/ALL_jp/howyoutubeworks/our-commitments/covid-response/ COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の医学的に誤った情報に関するポリシー https://support.google.com/youtube/answer/9891785?hl=ja ワクチンについての誤った情報に関するポリシー https://support.google.com/youtube/answer/11161123?hl=ja&ref_topic=10833358 YouTube、新型コロナ関連の偽情報を含む動画100万件以上を削除 https://japan.cnet.com/article/35175735/ ユーチューブ ワクチン全般の誤情報の投稿禁止 反ワクチン著名人チャンネルも停止 https://news.yahoo.co.jp/articles/d970cd2c2a6bc15546ca2a6ba90797783eac4d6d Twitterでも、コロナに関する誤情報や、誤解を招く情報を発信することを禁止している。 COVID-19について誤解を招く情報に関するポリシー https://help.twitter.com/ja/rules-and-policies/medical-misinformation-policy デマ5回でアカウント削除。Twitterのコロナデマ対策 https://www.gizmodo.jp/2021/03/twitter-launches-five-strike-system-to-ban-users-who-sp.html

インターネット調査の結果

調査項目	自治体（横浜市）の今後の感染症対策について
調査結果・出典	<p>横浜市長の発言/考えについて</p> <p>1) (令和3年9月10日市会本会議での所信表明から抜粋)</p> <p>https://www.city.yokohama.lg.jp/mayor/shiseiune/policyr0309.html</p> <p>2) 【新型コロナ】新型コロナウイルス感染症データのダッシュボード化について（令和3年12月8日市長定例記者会見にて）</p> <p>https://www.city.yokohama.lg.jp/city-info/koho-kocho/koho/topics/mayor-message1208.html</p>

インターネット調査の結果

調査項目	治療薬の開発状況について
調査結果・出典	<p>国内で承認されている新型コロナウイルスの治療薬</p> <p>エボラ出血熱の治療薬（抗ウイルス薬） 点滴で投与、重症患者に限定</p> <p>重度の肺炎、リウマチなどの治療薬（ステロイド剤） 国内では、レムデシビルとデキサメタゾンを用いる治療が広く行われていて、感染拡大で致死率が大きく下がった要因の1つと考えられている</p> <p>関節リウマチなどの薬（炎症を抑える効果） バリシチニブとレムデシビルの併用で、レムデシビル単独より1日早く回復した</p> <p>○カシリビマブ ○イムデビマブ 同時に投与することで、ウイルスの働きを抑える中和抗体を作り出す 死亡・入院リスクを約70%下げる（海外の治験・中外製薬による） カシリビマブとイムデビマブの2種類の抗体を混ぜ合わせて、点滴で投与することで、新型コロナウイルスの働きを抑える効果があり、初めて軽症患者に治療薬として承認</p> <p>その他、コロナ治療薬について ○イベルチクチン、アビガンなど臨床試験や臨床研究中の薬がいろいろあります。</p> <p>出典 特設サイト 新型コロナウイルス より https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/medicine/detail/remedies.html</p>

インターネット調査の結果

調査項目	日本における緊急事態宣言の基準について
調査結果・出典	<p>■そもそも緊急事態宣言とは？</p> <p>災害など国家の運営が危機的状況になったときに、対応できるよう特別法を発令するための宣言のこと。 例：テロ、内乱、暴動、大規模な災害、疫病(ペスト、結核など) 内閣総理大臣が発する緊急事態宣言は「新型インフルエンザ特別措置法」によって発令される ☆2020年3月13日 この措置法の対象に「新型コロナウイルス感染症」が追加された 引用(https://elaws.e-gov.go.jp/document?lawid=424AC0000000031)</p> <p>第一条 この法律は、国民の大部分が現在その免疫を獲得していないこと等から、新型インフルエンザ等が全国的かつ急速にまん延し、かつ、これにかかった場合の病状の程度が重篤となるおそれがあり、また、国民生活及び国民経済に重大な影響を及ぼすおそれがあることに鑑み、新型インフルエンザ等対策の実施に関する計画、新型インフルエンザ等の発生時における措置、新型インフルエンザ等まん延防止等重点措置、新型インフルエンザ等緊急事態措置その他新型インフルエンザ等に関する事項について特別の措置を定めることにより、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成十年法律第百十四号。以下「感染症法」という。）その他新型インフルエンザ等の発生の予防及びまん延の防止に関する法律と相まって、新型インフルエンザ等に対する対策の強化を図り、もって新型インフルエンザ等の発生時において国民の生命及び健康を保護し、並びに国民生活及び国民経済に及ぼす影響が最小となるようにすることを目的とする。</p> <p>つまり・・・ 目的としては、 まだ国民が免疫がついてない状態な中、新型コロナウイルスの感染が広まると生活や経済にとっても影響を及ぼす可能性がある それを防ぐために、ウイルス発生、まん延を抑える、医療体制を整えるなどして影響を最小に抑えること そのために「緊急事態宣言」を発令し、拡大しやすい都道府県へ規制をかけて影響を小さくする</p> <p>■緊急事態宣言が発令されたらどうなる？</p> <p>対象区域を指定し、最長3年間の期間、発令できる 対象都道府県の知事は以下の3つができる ①感染拡大の防止措置 外出自粛の要請、イベント中止要請・指示、学校や集会所など場所の使用制限 ②医療体制確保のための措置 診療提供、医薬品の発売 ③国民の生活を安定させるための措置 ワクチンの指示 ※強制力を伴わない、罰則規定なし</p> <p>■判断レベル 引用(https://corona.go.jp/emergency/)</p> <p>PDF別途添付 今回は納税・保険料の猶予期間を設けるなど対策を行っていくため、都市封鎖(ロックダウン)はされない 現在の日本では都市封鎖やロックダウンという言葉は記載なく、あくまで概念なため緊急事態宣言の後に検討</p> <p>参照 https://part.shufu-job.jp/news/solution/12792/</p>

インターネット調査の結果

調査項目	行政のデジタル化が進まない理由について
調査結果・出典	<p>行政のデジタル化が進まない一番の理由は、紙を主体とした情報管理と前例主義によるものだと考えられています。</p> <p>現在の行政が出来上がったのが、約100年前になるのですが、そこから、戸籍や登記情報など、あらゆる情報管理に紙の処理を続けてきました。また、窓口での対応、ハンコを中心とした本人確認に頼ってきたことと、前例がないからやらないという習慣により、これらに代わるデジタル化が進まない状況になっています。</p> <p>サブ的な理由として、行政側や利用する側のリテラシーが不足していることが挙げられます。組織の方針を変えるためには、責任者が相応の決断をしなければならないのですが、行政の責任者は基本的に50代となっており、IT化への対応力が、若年層に比べて低いことが考えられます。</p> <p>また、利用する側も同じで、少子高齢化の影響もあってか、完全にデジタル化に切り替えた場合に行政サービスを利用できない、いわゆるデジタル難民が発生することが想定されるため、デジタル化が進まない理由になっています。</p> <p>個人的には、行政があらゆる情報をデジタル化した際に、情報漏洩の危険性を懸念している人も多いのではないかと感じますし、それがゆえ、デジタル化を求めるニーズが国民の中で一定数に達していないことや、デジタル化を進めることで、新たな仕事を増やしたくない行政側の利害が一致しているのではとも感じました。</p> <p>参考にしたウェブサイト</p> <p>https://wisdom.nec.com/ja/feature/government/2021092401/index.html</p> <p>https://www.itmedia.co.jp/business/articles/2008/06/news041.html</p>

資料

対話型市民調査

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応
について

科学コミュニケーション研究所

さくり

20211219

ファシリテーター

田原敬一郎（さくり）

奈良由美子（放送大学）

吉田 省子（北海道大学）

ディレクター

白根 純人（さくり）

スタッフの紹介



調査の概要

- ・ イベント名 対話型市民調査
- ・ テーマ 新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について
- ・ 主催者 科学コミュニケーション研究所
- ・ 日時 12月19日 日曜日 13時00分～16時00分
- ・ 目的 テーマについて話し合い、疑問点をインターネットで調査する。
- ・ 参加者 一般市民（知識、経験不問） 8名程度
- ・ 参加方法 Zoomミーティング
- ・ 謝金 3600円（税込） 翌月10日指定口座に振込
- ・ 調査結果の利用方法
 - 1 調査結果は、参加者個人が特定できる情報を一切除外して報告書としてまとめ、一般に公開します。
 - 2 映像、音声、文字起こしなどの記録は、科学コミュニケーション研究所の関係者（守秘義務を負う者）を除いて開示しません。
 - 3 参加者は、調査の内容、とくに他の参加者の個人情報に関わることについて、口頭、SNSを含め、第三者へ開示することはできません。

さくり

- ・ スタッフの紹介
- ・ 調査の概要
- ・ 全体の流れ
- ・ Zoomの操作方法
- ・ テクニカル・サポート
- ・ 注意事項
- ・ 対話のルール
- ・ 自己紹介
- ・ 対話型市民調査

全体の流れ

さくり

ユーザーが操作する機能

- 1 オーディオ
- 2 ビデオ
- 3 チャット

その他の操作は、画面に表示されるメッセージに従ってください。

Zoomの操作方法

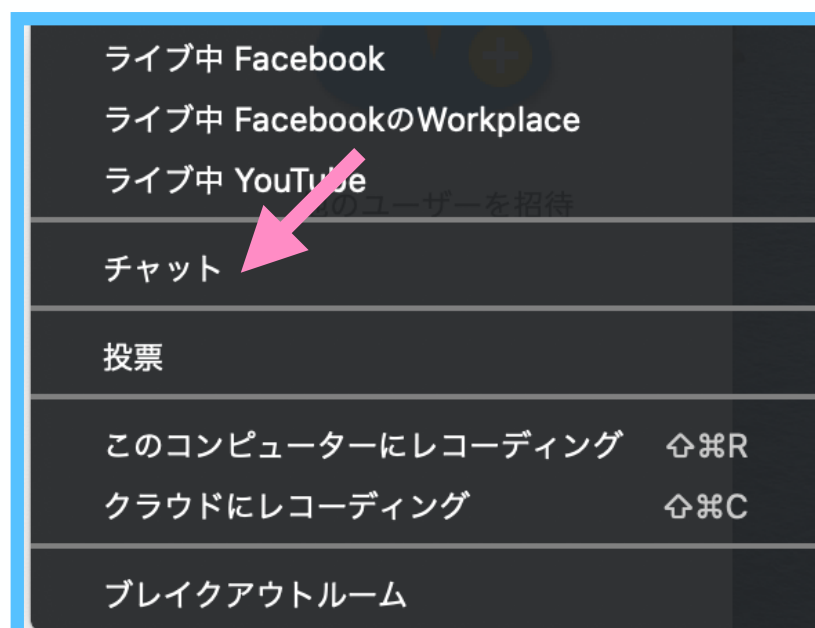


パソコンの場合 「チャット」の開き方

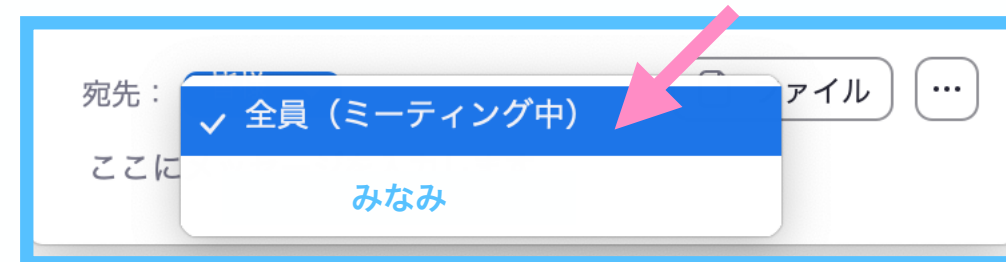
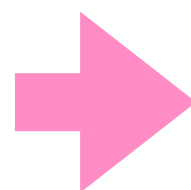
- 1 操作パネルに「チャット」メニューが表示されている例



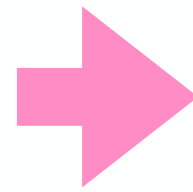
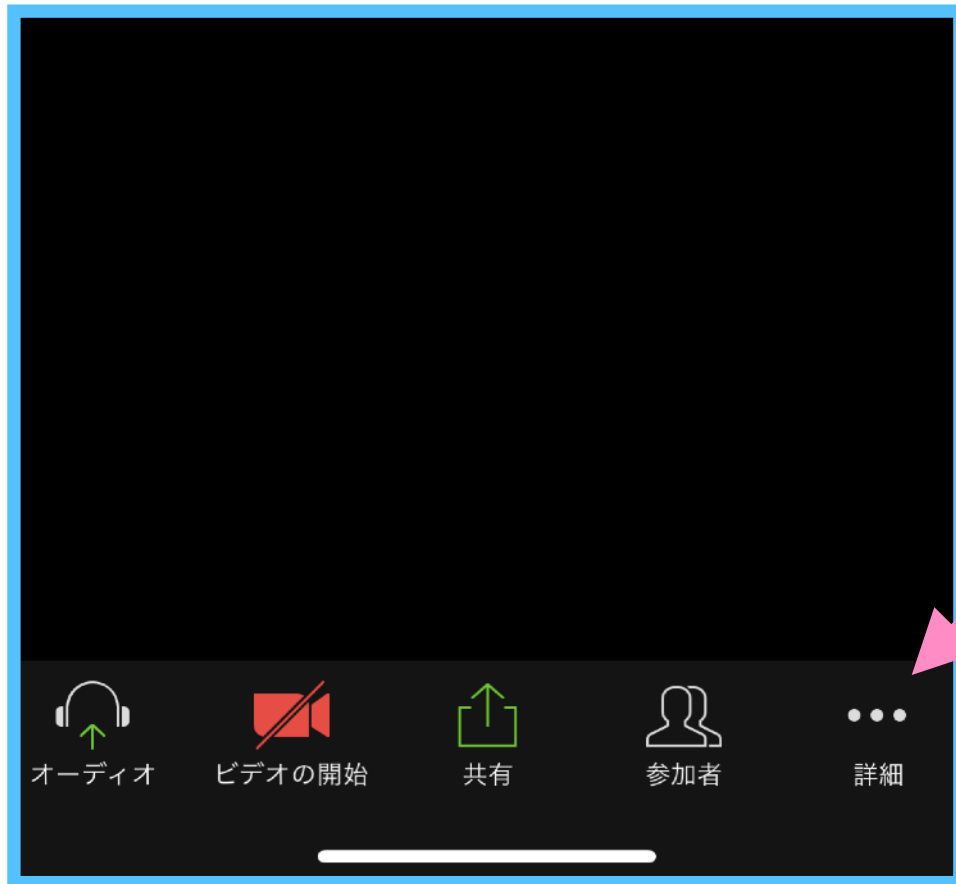
- 2 操作パネルに「チャット」メニューが表示されていない例



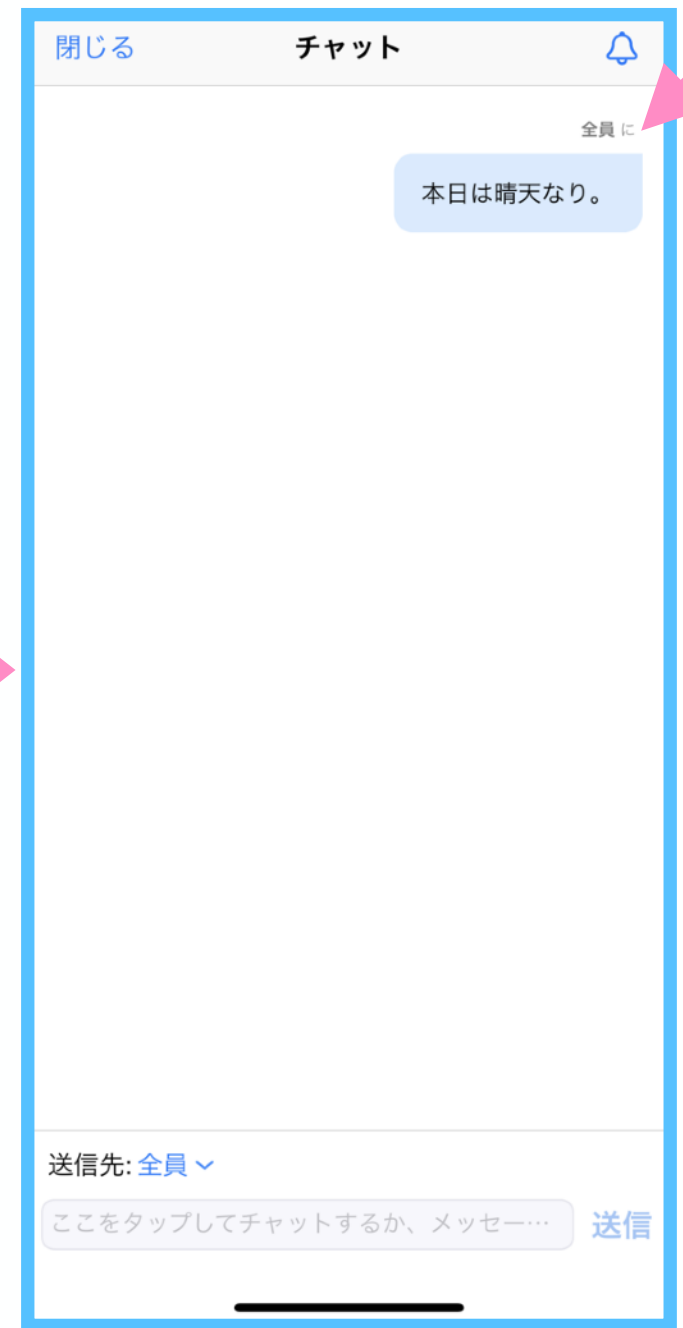
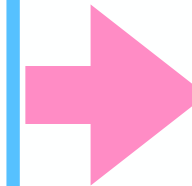
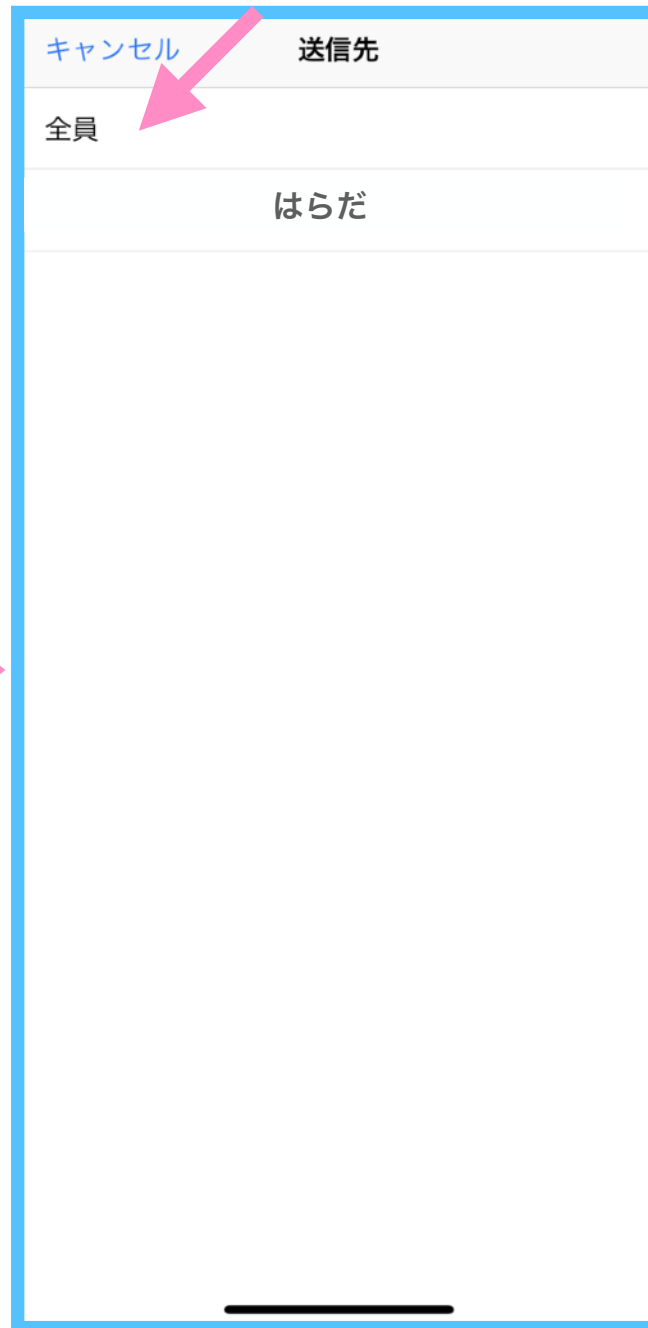
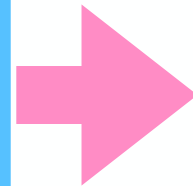
パソコンの場合 全員宛メッセージの送り方



スマートフォンの場合 「チャットの開き方」



スマートフォンの場合 全員宛メッセージの送り方



Zoomの技術的な支援が必要な場合は、

さくりZoomサポート
zoom@scri.co.jp

までご連絡ください。

システムトラブルにより、Zoomの回線が切断されてしまった場合、画面がフリーズしてしまった場合は、ログインし直してください。

万が一システムが復旧しない場合は、次のサイトで、対応方法についてご連絡いたします。

さくりホームページ
www.scri.co.jp

テクニカル・サポート



・マイクやカメラを通じて、プライベートな情報が共有されないようご注意ください。

・飲食やキーボードに入力、来客など、止むを得ず雑音が生じる場合は、マイクをミュートにしてください。

・このワークショップの映像、音声、チャットの記録は、主催者によって記録されます。

・チャットは一度送信すると削除できません。送信前に内容をよくご確認ください。

・ワークショップの進行、内容に関することは、ファシリテーターに質問するか、チャットで質問してください。

注意事項



対話のルール

- ・一人ひとりの考え、想いを大切にする。
- ・おたがいの違いや多様性から学び合う。
- ・全員が話せるチャンスをつくる。
- ・いつも考えていることにとどまらず、
その場で感じたこと、
話し合いの中で生まれたアイデアを大切にする。
- ・フラットな関係で話し合うために、
おたがいを「さん」づけで呼ぶ。

さくり

ファシリテーターに指名されたら、

- 1 おなまえ
- 2 お住まい、おしごと（話せる範囲で）
- 3 お正月の過ごし方

を30秒以内にお話してください。

お話が終わったら、親しみを込めて拍手しましょう。

自己紹介

さくり

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、**現在の知識と直感を頼りに**、次の選択肢の中からお自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに**番号とそれを選んだ理由**を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 だから。

アンケート

3 min



#チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よいと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

ワーク 1

よいと思う点はどこですか？



3 min

#チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくないと思う点はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

ワーク 2

よくないと思う点はどこですか？



3 min

#チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、

よくわからない点（疑問点）はどこですか？

あなた自身のことでも、周りで言われていることでも構いません。

3つ以上チャットボックスに記入してください。

ワーク 3

よくわからない点（疑問点）はどこですか？



3 min

#チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

これからインターネットを使った調査を行います。

いまの話し合いを踏まえて、

自分が調べたいと思った疑問点を、ひとつだけ、

チャットボックスに記入してください。

ワーク 4

調査項目と担当の決定

3 min



#チャットボックスでの改行 Windows : Shift + Enter / Mac : Control + Return

これから、いま選んだ疑問点について、インターネットで調査します。

・調査結果のまとめ

パソコンの方 Wordなどのワープロソフト

スマホ・タブレットの方 メモ帳などの文字が入力できるアプリ、またはお手元の紙

※イベント終了後、ファイルやメモ、手書きした紙の写真をお送りいただきます。

・記載の方法

箇条書きで良い。コピペでなく、自分の言葉で。

情報源（URLやサイト名、文書名など）をできるだけ書く。

ワーク5

インターネット調査



30min

調査したことを、順番に発表します。

ひとりの発表が終わったら、ねぎらい
を込めて拍手しましょう。

ワーク 6

調査結果の共有



2 min/人

新型コロナウイルス感染症をめぐる行政の対応について、対話結果を踏まえて、次の選択肢の中から、ご自身のお考えに近いものを選び、チャットボックスに番号とそれを選んだ理由を入力して下さい。

- 1 評価できる
- 2 どちらかという人评价できる
- 3 どちらかという人评价できない
- 4 評価できない

記入例 1 だから

アンケート



3min

「本当に困っている人」「救っていかないといけない人」がいるというご意見がありました。それは具体的に誰だと思えますか？

3つ以上チャットボックスに記入してください。

追加ワーク

3min

さくり

1 インターネット調査の結果は、**本日中午に**、メールで提出してください。

2 お送りするURLを開いて、本日の調査に関するアンケートにご回答ください。

3 本日初めて参加された方は、あわせて、振込先の情報を登録してください。

事務連絡



つぎの**一歩**をごいっしょに。

科学コミュニケーション研究所

ありがとうございました。

さくり

手を振ってお別れ